

小売業界の2月の売上高

スーパー3か月連続プラス

青果は引続き好調に推移

小売の業界団体は2月の売上高を発表した。

スーパー(日本チェーンストア協会、56社・9991店舗)の売上高は9638億円。既存店で前年を1.3%上回り、3か月連続でプラスとなった。食料品は農産品の好調により前年比2.2%増の6646億円となった。野菜では、ハクサイ、キャベツ、ダイコン、ネギ、アスパラガス、キノコ

類、コマツナ、モヤシ、カ

ツト野菜などは好調だったが、ジャガイモ、プロッコリー、トマトなどの動きは鈍かった。果物では、イチゴ、バナナ、パイナップル、カットフルーツなどは好調だったが、ミカン、リンゴ、輸入ブドウなどの動きは鈍かった。

食品スーパー(新日本

スーパーマーケット協会など3団体、270社・7899店舗)の売上高は

8292億円で、既存店

で前年比0.7%増加した。食品は、青果が4.4%増、畜産や惣菜も好調で全体では1.1%増加。

地区別はほとんどのエリアで前年を上回り、特に中部地方は前年比1.5%増と好調だった。

百貨店(日本百貨店協会、80社・225店舗)の売上高は4290億円。既存店で前年比0.

9%減となり、3か月連

続のマイナス。食料品は1266億円で前年比3.2%減、生鮮食品は2.7%減、惣菜は2.6%減少した。

コンビニ(日本フランチャイズチェーン協会、8社)の売上高は既存店で6940億円。前年を

0.3%上回り、2か月連続のプラス。強い寒気による全国的な低温や、北

陸地方を中心とした大雪

等が来店客数に影響したものの、調理麺等の温かい商品やカウンター商材、惣菜、野菜(サラダ、カ

ツト野菜)が引続き好調に推移し、売上げは前年を上回った。来店客数は1.4%減の11億156

6万人で24か月連続マイナス。平均客単価は1.8%増の622円で35か月連続プラスとなった。